

令和3年8月 市長定例記者会見

令和3年8月2日(月)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和3年8月市長定例記者会見を始めさせていただきますと思います。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質問応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そして、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようご協力をお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 皆さん、こんにちは。8月定例記者会見です。よろしくお願いいたします。

まず、今、福井県でコロナがたくさん発生しておりますが、この敦賀市でも発生しております。なかなか収束しませんけれども、PCR検査をしながらできるだけ早い収束に向けて頑張っていきたいと思っております。

もう一つは、ワクチン接種でございますが、先日も本部会議を開きましたけれども、12歳から16歳未満の方へのワクチンの接種券を7月30日付で送付しております。そろそろお手元に届いた頃だと思っておりますが、明日、8月3日から申し込みの受け付けをさせていただきます。この場合、小学6年生から中学3年生までの接種ということですが、必ず保護者同伴でお願いしたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

また、予約につきましては、ウェブを活用して予約していただきますとスムーズにできると思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

それから、4連休があつて、少し発生しているという状況ですけれども、2週間後にはお盆休みが入ってきますので、夏場で暑くて、ちょっと気持ち的にはだらけるかもしれませんが、ぜひ市民の皆様には気を緩めることなく新しい生活様式の中でしっかりと感染を回避していただきたいというふうに考えています。

それから、8月につきましては、8月16日が恒例のとうろう流しと大花火大会でしたけれども、今年も中止になっております。大花火大会は中止としまして、とうろう流しは規模を縮小して実施するということですので、皆さんのほうで対応をよろしくお願いいたします。

なかなか収束しませんが、ワクチンの接種につきましては64歳以下の希望者が少ないということもありまして、10月末までに1回目が終わるような段取りでいけるんじゃないかと。ですから、9月中もしくは9月の初旬で1回目のワクチン接種が希望する皆さんには全員できるような仕掛けにしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。

では、今日、記者発表2つありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 発表項目、2つであります。

1つ目が令和3年度の敦賀市職員採用候補者後期試験の実施ということでございまして、今年度は短大、高校卒業程度の事務職、それから土木技師および電気技師のほか、社会福祉士、看護師を募集いたします。受付期間は8月13日から27日まで。第1次試験は9月19日に敦賀市役所で行います。第2次試験は10月中旬、最終合格発表は10月下旬を予定しております。

それから2つ目の項目ですけれども、敦賀市知育・啓発施設の名称募集についてでございます。

北陸新幹線敦賀開業に向けて、敦賀駅西地区で整備を進めております知育・啓発施設について、同施設を市民に愛され親しまれる普段使いの拠点とするため、その名称を公募いたします。期間は、本日から9月10日金曜日まで。応募資格は、敦賀市在住、在勤、在学の方、または敦賀市出身の方です。応募につきましては、新たな取り組みとして、同時に公開されます情報編集ワークショップの映像をぜひ御覧の上、敦賀市知育・啓発施設専用ホームページからご応募くださいますようお願いいたします。魅力あふれる多数のご応募をお待ちしております。

発表項目は以上2項目です。よろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今発表いたしました項目につきましてご質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 知育・啓発施設の名称の募集の件でお伺いしたいんですが、付ける名前から、どんな施設であるとか、どういうメッセージが伝わるような名称にしてほしいとか、そういう名称に含めたい狙いみたいなものはありますでしょうか。

【都市整備部長】 そちらについては、資料の2ページをご覧くださいまして、機能、活動の背景となる考え方というところで、「本を中心に、生き生きとした場が生まれる」。そして右側には「様々な人と本が行き交いつながることで新たな体験を生む本棚空間」があるというふうなところで、図の下に「本の新しい可能性」や「「本」「空間」「コト」それぞれが関連し、本から得られる創発や、人と人とのふれあい・つながりを生み出します。」、こういったことがイメージできる名称が市民の皆様方から集まればいいなと考えているところでございます。

以上です。

【記者】 関連してですけれども、こういう資料というか考え方というのは、ワークショップのホームページで公開しているところで見れば、一般の方でも分かるようになっていのでしょうか。

【都市整備部長】 知育・啓発の専用のホームページからこういった情報は得られるようになっておりますし、後ろにつけていますワークショップの資料等においては、そういう言葉からどういうふうな連想、広がっていくようなところを想起していくのかというやり方なども記載してございますので、こういったワークショップの資料を見ながら皆さんで考えていただければなど。そういうふう考えております。

以上です。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきまして質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番、フリーの質疑へと移ります。幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 先月21日にエネルギー基本計画の素案が示されまして、そのときの囲みで、市長、もう一度お願いに行くことがあるというふうなことをおっしゃっていましたが、その後どのようなアクションを取られたのか、お尋ねします。

【市長】 その後のアクションというのは今のところないんです。ですから今から何をしていくかということになってくると思いますけれども、原子力懇談会などの場もありますので、そういう場で国から直接説明を受けながら発信していきたいというふうに思っています。

【記者】 コロナのほうについてですけれども、さっきの挨拶の中でも話がありましたが、改めて、お盆の前に市内でも感染が広がっている状況ですので、市民の方にメッセージとか、今後8月の過ごし方について、啓発とか、そういうメッセージと、あともう一つ、8月の頭ぐらいに次のワクチンの供給のタームの見通しがつくというようなことが前回の記者会見のときにあったと思いますので、ワクチンの供給の見通し、新しく分かったらお伺いしたいです。

【市長】 ワクチンの供給については、部長のほうから答えると思いますけれども、7月27日から昨日までに全体で31名の患者が発生しているんですけれども、その中で年齢を見ますと10代、20代、30代が全部で23人で74%以上を占めています。ですから、やっぱり若い人たちがこらえ切れなくなっているのかなという不安を持っていますので、そういう人たちにもう一回お願いをしなくてはいけないと思っています。

その中で、じゃ何をすればいいんだという話になるうかと思いますが、県のほうからも発信していますのは、「おはなしはマスク」ということで、マスクをしていると、うつるのは非常に少ないよということと、食事のときもマスクをしながら。また、家族の皆さんでも、いつも生活している人以外がいるときにはマスクをする。そういうことと、新しい生活様式を地道にやっていくしかないというふうに思っていますので、そういうところを訴えていきたいと思っています。

暑くなって、マスクを外したいという気持ちにもなりますし、先週の4連休のときから今度またお盆の休みがあるわけですから、気持ち的には少し緩んでしまう部分があると思いますので、何とか気持ちをつなぎとめていきたいというふうに思っています。

【福祉保健部長】 ワクチンの供給につきまして、福祉保健部のほうからお答えさせていただきます。

8月中旬にワクチンは5箱、5,850名分が来るという連絡は来ておりますが、こちらの量で8月いっぱいまでは十分可能であるというところでございます。それ以降につきましても、9月中に2回発送されるワクチンの量もおおむね見込みが立っておりますので、ご希望になる市民の方のワクチン量は確保はできているものと考えております。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 ちょっと細かいんですが、市長、冒頭の挨拶の中で、64歳以下の希望者が少な

いというふうなことをおっしゃったと思うんですけども、どれぐらい少ないのかというのは分かりますか。

【副市長】 ワクチンの予約ですけれども、8月中はほぼいっぱいになっております。9月も7月20日から再開させていただいておりますが、3分の1強、約35%ということです。これまでは予約開始をすると、すぐに埋まっていたのが、ちょっと埋まるスピードが緩いかなという気はいたします。そういったところで、全国的に、また県内でも相当感染が広まっておりますので、なるべく早く打っていただきたいという趣旨で先ほど市長が申し上げたということでございます。

【記者】 埋まるスピードが遅い背景は、こういうのがあるんじゃないのかというのがありますか。

【副市長】 やはりワクチンの接種を始めた頃は、相当皆さん危機感を持っておられたのかなと。全国的に見ても予約を開始するとすぐ埋まったというような状況がある中で、特に高齢者の方はすぐに予約されたのかなというふうに思いますけれども、若い方も対象にすることになって、そういったところで気持ちの関係があるのかどうかというのはよく分かりませんが、そういった違いはあるかなという気はします。必ずしも早く打たなければいけないことはないんじゃないかと。それから、重症化もちょっと減ってきているかと思えます。そういったこともあって、すぐには埋まらなかったのかなという気はしますけれども、先ほど市長が申し上げましたように、また部長からも申し上げましたけれども、ワクチンは敦賀市の市民分は10月までに確保できる見込みでございますので、市民の方にはなるべく早く予約して接種していただければというふうに思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 先ほどの幹事社の質問に関連するんですが、以前、市長は、この場で、原発のリプレースなり増設について、個人的にはエネ基のほうに入れてほしいという思いを語られました。それほど強いということだと思うんですけども、これに対して今回、10年目でようやく来たのだから、ここは区切りで改めてそういうものを入れてもらうんじゃないかという期待の下でいたというふうに私は解釈するんですけども、そのギャップについてどう考えるかということですね。政府が実際にエネ基で出してきた素案と、ご自分の思いとのギャップをどう思っているかということと、なぜこういうギャップが生まれているというふうに認識されているか。この2点について教えてください。

【市長】 ギャップが生まれている理由については、なかなか難しいと思いますけれども、エネ基で10年目が節目ですし、それで新たな増設・リプレースについての方向性というのは示していただけるといいんじゃないかなというところは期待しておりました。今、素案の状態としましても、含めていかないというような方向性が見え隠れしますので、それについては遺憾だと思っています。

というのは、なぜかといいますと、10年待ってくれという話じゃなかったんですよ。規制とかができた当時は、半年程度で審査して判断していくからみたいな話があって、それが3年延びて3年延びてというふうに今あるんですね。ですから、自治体によっては新しい取り組みをしているところもありますし、そうでなくて、ずっと待っているところもあるんです。待っていて、あなたたちが待っていたから悪いでしょうみたいな世界じゃな

くて、きちんとした方向性を示してほしい。

再稼働するにしても、再稼働した自治体としても国策として原子力政策が前に進んでいくから応援しましょうというのがありますし、若い人材にしても、また会社がお金を投資するにしても、そこは長い力強いエネルギー政策がないと前に進まないわけですから、そこをきっちり示していただきたい。

この10年の節目ということを外してしまったときに、じゃ次のときにやるかやらないかということ自体も分からないんですよ。そこまで待つかどうかということですよ。

ですから国民世論を待つんだとおっしゃっていて、立地の気持ちをどうするかということが抜けているわけですから、立地の皆さんもだんだんと気持ちは離れていっていますので、離れていってしまったときに、世論が認めそうだからやってもいいよみたいになったときに、よそでやってくださいねという話になるんじゃないかということに危惧しています。

【記者】 今のお答えに関連しているんですけども、待っていると、3年。だけど来ない。具体的に、敦賀市でいうと、敦賀3・4号が審査を待っているということを意味しているんですか。

【市長】 原子力発電に対しての後ろ向きな判断というのは、ずっと続いていますよね。それをいずれ必要なものと、ベースロード電源として必要だから前に進めていかななくてはいけないという国としての方向性というのを出さなくてはなりませんよね。今出されているのは、再稼働はしましょう。でも新增設はしませんよと。一方で、できるだけ少ない割合にしましょうと。何を言っているか分からないということです。

【記者】 コロナに関して。ここ1週間ぐらいで、先ほどもおっしゃられた30人ぐらい出ているという話で、敦賀市の本町でも、これまでの規模よりもすごく大きいクラスターが発生したと思います。それについて、その感染源とか広がり方とか、どういうふうに見ているかということと、それについての対策についてどういうふう考えられているか。そこを教えてください。

【市長】 感染源についてはあまり分からないんですけども、広がり方については、早く広がっているなということだと思います。福井県の方式として、その方の周りの、もう一つ周りぐらいまで調べますので、それで抑えられていた部分が少しいちごっこになっているというふうに思いますけれども、何とかこのままその輪を広げることで抑えていただきたいというふうに思っています。

原因の特定というか、そういうことについては、私のほうからは発言は控えさせていただきます。

【記者】 たちごっこのような感じになっているというのは、当初の感染株というかコロナウイルスの株よりも、すごいスピードが早いという実感とか、発症までに至るスピードとかも早いようなことも言われていますけれども、その辺をやはり敦賀のクラスターについても実感されているということでしょうか。

【市長】 前の敦賀市の学校のときもそうだったんですけども、もともとのウイルスというのは、4日間潜伏期間があつて発症する、その前2日間からうつり出すというお話だったんですが、県の調査結果でお聞きしたところは、それが2日早まっている。ですから2日後に発症する。そうすると、朝接触すると夕方にはもううつす可能性があるということ

とおっしゃっていますので、そうするとPCR検査を一晩したときに、もう次の輪に既に行っているわけですよ。そこをどうやって抑えるかということなので、今までは県とすると、それをもう一つ次まで抑え切れていたんですけども、そこを追いかけているというふうに思っていますので、何とかそこで抑えていただきたいというふうに期待しています。

【記者】 それに関連してなんですけれども、その対策としての急務がひょっとしたらワクチンなのかなというふうにも思います。若い人での広がりがあるということなので、若い人がどれだけワクチンを接種するかということに結構影響があるのかなというふうにも思うんです。明日から12歳から16歳の予約が始まるということで、16歳以上については予約の状況というのが見えているのかなと思うんですが、先ほどの35%というふうにおっしゃられた中でいうと、64歳から16歳までの間で予約率というか、それは結構年代によって差があったりするのでしょうか。

【福祉保健部長】 医療従事者とか介護従事者というような別枠で接種されている方の人数は含まないので、正確かどうかは分からないんですけども、コールセンター等で確認できている予約の状況を見ますと、やはり20代の予約率が一番低いかなという状況でございます。年代が上がるに従って予約率は少しずつ増えていっているという状況が見られます。正確な数字が出ないもので、参考程度でございますが、そういったような状況が見られております。

【記者】 今のお聞きすると、やはり若い人への意識というか、そこへの植え付けというのがこれから大きな課題というか対策に関わるようになってくるかなと思うんですが、その辺は、市長、いかがでしょうか。

【市長】 ある若い人に聞いたんですけども、以前、受けないと言っていた人なんですけど、今回広がっているのを受けようかなと。受けようと思って予約しようと思ったら9月にならないと受けられないんだと。そのくらい時間がかかるんだねということをおっしゃるので、そこから推定すると、若い人だと、今日言ったら明日受けれるとかそういうふうに思っているんじゃないかなと。

もう一つは、先ほど言いましたように、10月の初旬には第1回目の接種が終わるわけですから、受け付けが終わるということですよ。そうじゃなくて、自分が受けなくなったら11月でも12月でも受けられるというふうに思っている方がたくさんいらっしゃるんじゃないかなと。その辺をもう少しインフォメーションして、もうそろそろ終わるんですよ。接種予約が終わってしまうと受けられませんよということをインフォメーションしたときに、もう少し駆け込み需要じゃないですけども受けてくれるんじゃないかなと。発信の仕方を変えてお願いしていかなくてはいけないというふうに思います。

【記者】 先週の原子力規制委員会で、敦賀2号機に関して、審査の中断の可能性が出てきたということで、早ければ8月下旬にも判断ということなんですけれども、昨年来、審査が一向に進まない現状について、市長は今どのようにお考えですか。

【市長】 審査をもう一回議論するという事なんですけれども、どちらが悪かったか、どちらが間違っていたかというのは、私どもには分からないんですけども、審査を受けるほうとすると、審査する側に受け入れてもらえるような信頼関係をつくらないと前に進まないと思いますので、しっかり対応していただきたいと思っておりますし、前に進まないかも

しれないということについては、経過を見守るしかないというふうに思っています。

【記者】 ちなみに、YouTube等でも審査の様子というのは視聴できると思うんですけども、現時点で文書とかも含めて、審査の中を見られた市長の印象としては、どんな感じですか。

【市長】 ごめんなさい。YouTubeは配信して、受けてはいるんですけども、そんな詳しく見ておりません。

【記者】 今おっしゃった信頼関係という意味で、原電に対して何か言うことはありますか。

【市長】 勝手な私のイメージですけども、前回がこうでしたよねという話で、次のときの資料を持っていくわけじゃないですか。そうしたら、この資料は、こういう理由でこういうふうにこの部分を気をつけて変えていますよということを言わなくてははいけないですよ。それが抜けたんじゃないかなと思います。ですから、それが軽微なこととして抜けたのか、言い忘れたのかは分かりませんが、相手からすると、だましたというふうに取り扱ったんですよ。そこについて、違うということをしつかり誠意を見せて、信頼関係をもう一回築かないと、その信頼関係の部分というのがまだ構築されていないので、こういう議論になっているんだと思うんですね。

【記者】 コロナのことで2点お伺いしたいんですが、お盆の帰省を中止とか延期するようという、昨日、知事会のほうから話がありましたけれども、呼びかけようと。市長はどのようにこれについてお考えでしょうか。

それからもう1点は、松原の海水浴場など、今日もたまたま昼、見にいきましたら、結構な方が海水浴をされているんですけども、この辺については、市としては特に何か講じられるようなことはあるのでしょうか。

【市長】 一つは、お盆ということですけども、コロナの関係で、お盆の帰省をどうするかというのがありますので、それぞれ皆さんでいろいろと家族で相談していただきたいと思います。ただ、去年は1年目でしたので、お盆の帰省は控えてほしいんですという話をしました。しましたけれども、今年、2年目ですので、じゃそれを控えてくれと言えるのかどうか。高齢になったお年寄りもいるわけですよ。そうしたら会いたいのに会えないというのがありますし。ただ、65歳以上でコロナのワクチンを接種したわけですよ。ということは、そこにうつす可能性を下げておきましょうということをしたのに、会うなというのかというのが非常に難しい議論になると思います。ですからそれはリスクもありますので、ご家族でご相談いただきながらやっていただきたい。

ただ、お願いしたいのは、先ほども言いましたけれども、マスクをしていることは非常に有効だということを聞いておりますので、そういうときには家族内であっても、家庭の中にも、おうちの中にもマスクをしていただいて、何か食べるときでもマスク会食の手法を取りながら十分に注意してやっていただきたいというふうに思っています。

それから、海水浴場につきまして、敦賀市の松原は閉鎖いたしました。ほかのところも閉鎖したところと、やっているところもあります。気比の松原につきましては、去年もそうでしたが、閉鎖はしているんですが一応監視員さんをつけて水難事故がないようにしています。それから、パトロールもしながら交通渋滞とか違法駐車ができるだけないように努力はしています。

その上で、それでも来る人に来るなど言えるのかというのは非常に難しいところがありまして、自己責任で泳いでいらっしゃる方は仕方ないのかなと考えています。一方で駐車場がいっぱいになりましたら当然止められませんから、そういう中で絞りながら、実際には泳いでいる人がいるという状況です。それを排除する予定は今のところありません。よっぽどひどくなってくると何らかの手段が要ると思います。

【秘書広報課長補佐】 ほかはよろしいですか。

それでは、これもちまして8月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後 2時 0分 終了